

秋厚労ニュース

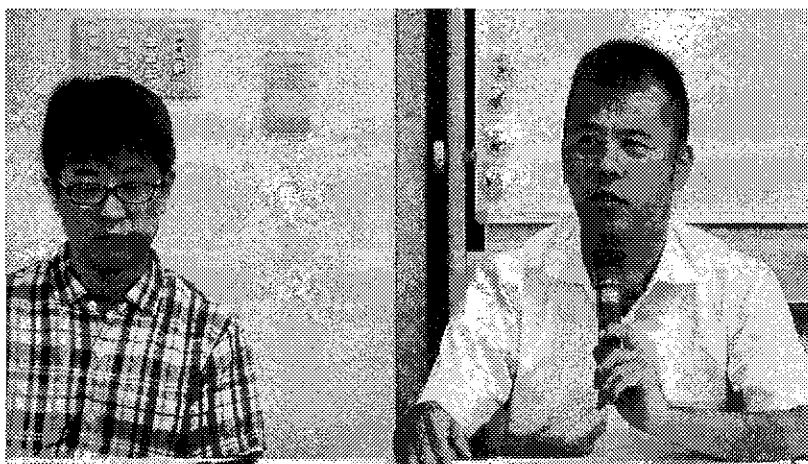
NO1860号
2018年8月6日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

常勤医師を迎え

ここからスタート

これからの鹿角の精神科
医療を考えるつどい

7月21日（土）、鹿角市で「これからの鹿角の精神科医療を考えるつどい」が開かれました。4月よりかづの厚生病院に赴任してきた精神科医師2名を含め、住民など約50名が参加しました。



大野正人先生（左）櫻庭泰先生（右）

かづの精神科外来

住民運動が実り、かづの厚生病院に12年ぶりに精神科常勤医師2名を迎えました。外来は平日午前・午後と交代で診察。新患も診察が可能になりました。

つどいは医師、病院、行政など、さまざまな立場からの報告のあと、鹿角の精神医療について自由に話し合われました。

「地域医療がやりたかった」

精神科医師・櫻庭泰先生は「精神福祉領域は大きな

新患受入が可能に

ウエイト、特に行政との連携が不可欠」「鹿角市いきいき健康課と月1回検討会を行っている。このような仕事をしたかった」と話しました。同じく医師・大

デイケア・訪問診療を開始

かづの厚生病院・原田事務長から「常勤の医師を迎え、新患受入が可能になり、これからデイケアや訪問診療などを行っていく予定」と報告がありました。

精神医療を学ぶ場を

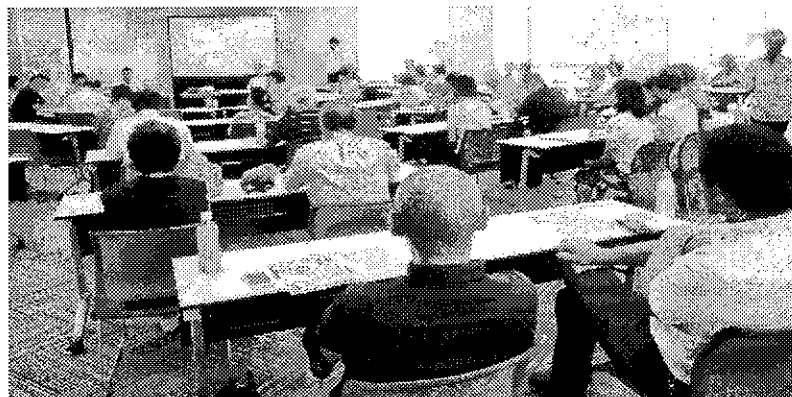
報告を受け、会場から質問や意見など発言が相次ぎます。ひきこもりに関する

鹿角市いきいき健康課・成田さんは「この12年間、地域外の多くの先生たちに診察応援にきてもらい支えられてきた」「精神障害の妊婦さんなど、他の診療科との係わりにも期待できる」と話しました。

他にも小坂町社会福祉協議会・柏山事務局長、鹿角市社会福祉協議会（文章報告）、鹿角の医療と福祉を考える市民町民

野正人先生は「今までは近畿地方にいたが、地方で仕事をしたかった」「小さいコミュニティには医療・福祉・行政などの関係が近い利点がある」と述べました。

他にも「ボランティアをしているが、ケースによってはわからないことがある。基本的な知識を学べる場がほしい」という意欲的な住民の意見もありまし



これからの鹿角の精神医療を考えるつどい

た。また高校生の子を持つ親は「どうしてお医者さんになったのかなど、鹿角の若者とも話してもらえれば子どもたちの夢も膨らむ」と発言。先生方への期待の声がたくさんあがりました。「先生方には鹿角をもっと好きになってもらって、長く鹿角に住んでもらいたい」と先生に思いを伝える場面も見られたりと、参加者が見え思いの意見を言えるつどいになりました。